



学校法人

チューリップ学園

チューリップ幼稚園 / チューリップ第二幼稚園

## チューリップ学園

もの造りをはじめ、たくさんの情操教育を人格形成の原点となる幼児期に体験することを大切に考えています。

心豊かで思いやりのある人に成長するように、一人一人をしっかりと見つめた保育を目指しています。



チューリップ幼稚園



チューリップ第二幼稚園

## 園の特徴

楽しい大人になるために根をしっかりと張れるような豊かな情操教育を!!

3歳からの幼児期におぼえた、楽しいこと、素晴らしい体験、大切なルールは、社会人になっても忘れません。たくさんの思い出を体験する、物づくりの喜びを感じる、たくさんの自然と触れ合って豊かな心を育む、自主性と個性をのばし創造的な子に育てて欲しいと願っています。



令和6年度現在  
(在籍)

年少：8名

年中：7名

年長：19名

計34名

**子どもが持つ困難さを理解し  
より良い育ちを育む為に**

# 男児：A君

- ◎年少クラス入園
- ◎1月生まれ
- ◎家族構成：父・母・姉2名・本児 5人家族
- ◎令和4年度(年中クラス)巡回相談を実施

年中クラス進級時より検討してきました

## 令和4年度6月：巡回相談を実施

相談理由：年少クラスの頃より体の不自由さがみられる。

- ・体の使い方がうまくできない。
- ・階段の上り下りが難しい。 など

保護者は気にしている様子はなく、保護者からの要望ではないが、園として巡回相談を依頼。

### 巡回相談のカンファレンスにて(巡回相談の先生より)

- ・筋緊張が弱い
- ・滑舌の悪さがみられる。
- ・手先の不器用さがみられる。

### 今後の対応について(巡回相談の先生より)

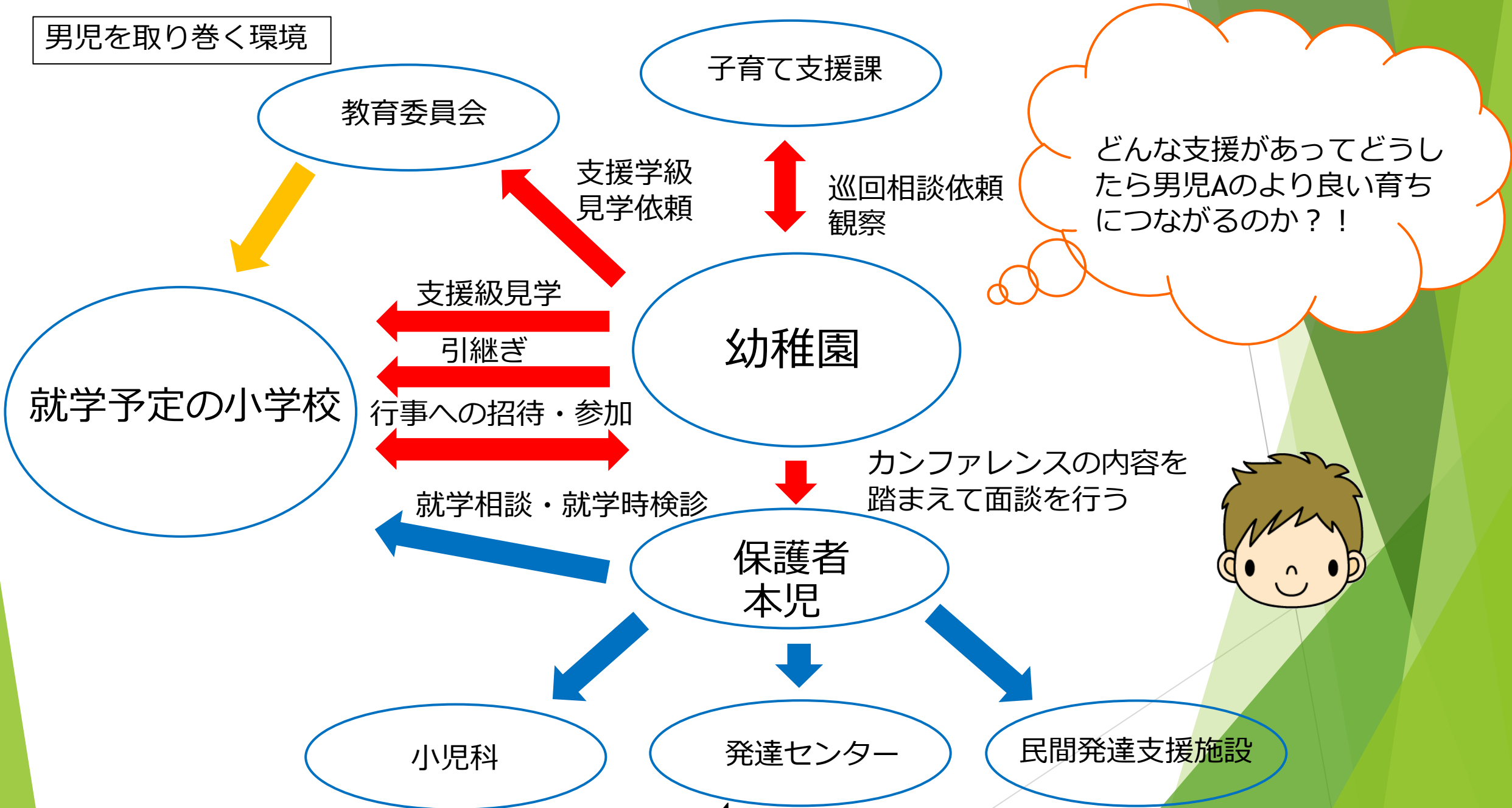
- ・発達センターへの促しが必要である。

## 令和4年度7月：母親と面談

巡回相談の内容を踏まえ本児の気になる点を伝え発達センターへの促しを行う。



男児を取り巻く環境



どんな支援があってどうしたら男児Aのより良い育ちにつながるのか?!



## 家庭での様子や母親の様子

- ・家ではおむつで過ごしている。
- ・公園に行ったり、戸外で遊ぶ機会はほぼない。
- ・本児は家でゲームやユーチューブを見ていることが多い。
- ・集金などの遅れがみられる。
- ・母親が寝坊してしまい登園時間、降園時間に遅れることが多い。
- ・車の運転ができない

などの様子が見られた為、日頃から大切なお知らせや、行事の際の集合時間などは口頭でもお伝えし確認し合うなど、**母親の支援も必要である。**

そのような現状もあり

7月の面談で気になる点を伝え、理解は示していただけだったが、発達センターへ通園することは難しい。



**園でA君への発達支援が必要**

## 園での対応や子供への取り組み

- ・ 個別指導計画を立てる  
(子どもへの理解を深め、出来ること、出来ないことを知り、計画を立て支援していく)
- ・ 職員同士の情報共有や意見交換
- ・ 保育士の資質向上  
(研修への参加や支援級、発達センター等の見学など)



個別の指導計画 年度

記入年月日

組 ( 状況 )	氏名	担任 氏名	
幼 児 の 様 子 ・ 様 態			
生活習慣 行 動			
遊 び 運 動			
対人関係 コミュニケー ション			
本人の 興味関心 保護者の 願 い			
今年度の目標		指導の手立て・配慮事項	
場 面			
	ねらい	指導の手立て・配慮事項	評価・課題
自由遊び			
集団遊び			
コミュニケー ション			



## 筋緊張が弱いとは・・・ (低緊張)

低緊張とは、自分の体を支えるための筋肉の張りが弱い状態。

低緊張の子どもは動くのを嫌がることがある。筋肉の張りが弱く、体がぐらぐらとするために体を動かすことに対して不安を抱きやすい。

また、固有感覚(自分自身の体を感じ取り体の動きをコントロールするときに使う感覚)の鈍感さがあげられる。

体の末端である手先の筋肉は、脳からの指令がより届きにくくなるので、微細運動が苦手となることが多い。



## 筋緊張が弱い子

### 粗大運動

立ち上がる、歩くといった基本動作や、姿勢を保ったり、身体全体を大きく使った運動。身体を動かして、自分のボディイメージを作ることによって、より複雑な動作ができるようになる。

### 発達を促す遊び

- ・ バランスボール
- ・ トランポリン
- ・ マット遊び
- ・ ボールを使った遊び



### 微細運動

手や指を使った細かく精密な動作を必要とする運動。指先や手の平など、小さな筋肉を動かして行う。目で見たいものをつまむなどの動きで、身体の複数の部分を連携させるため粗大運動より難しい。

### 発達を促す遊び

- ・ 積み木
- ・ パズル
- ・ シール貼り
- ・ 紐通し



## 子どもの育ち(4歳児クラス)

- ・バスの乗り降りに援助が必要。
- ・椅子から立ち上がる際には、手をつかないと立つことが容易ではない。
- ・着替えや靴の脱ぎ履きに時間がかかったり、援助が必要。
- ・ボタン付け外しが出来ない。
- ・滑り台、ブランコ、ジャングルジムなどの固定遊具では怖くて遊ぶことができない。
- ・両足跳び、片足跳び、ケンケンが出来ない。
- ・指先が不器用で箸は使用できずスプーンやフォークも握るように使う。筆圧も弱い。
- ・紐通しや折り紙が苦手である。
- ・活舌の悪さがみられる。



- ・バスの乗り降りが一人で行えるようになる。
- ・保育者がついているとジャングルジムの2段目まで登れるようになる。
- ・保育者と一緒であれば滑り台が滑れるようになる。
- ・生活のしずらさや困難さに気づき出来ないことへの葛藤がみられる。
- ・出来ることが増え自信に繋がっている様子がみられる。

## 【子どもの育ち】

いろいろなことに挑戦していく中でできるようになったことも多く自信に繋がっている反面、出来ないことや生活のしずらさに気づきイライラしたり、葛藤する様子が見られる。

また、友達との関わりの中で友だちに「A君は出来ないでしょ」「なんで出来ないの」と聞かれたり言われてしまうことがあり泣いてしまったりトラブルになってしまうことが増える。

## 【保護者対応】

園での様子や友だちとのやり取り等の現状を伝え理解を求め、そのうえで今後の方針や希望を伝えていくようにした。また保護者との信頼関係が出来てきたこともあり、保護者の状態や様子に応じて家庭との連携を求めたり、希望も伺っていくようにした。

## 【課題】

- ①他児との関係性や理解
- ②活動内容(行事での発表)はどうか
- ③生活や行動のしずらさ、困難さの改善
- ④保護者との連携

課題① 他児との関係性や理解について

誰にでも苦手なことや得意なことがあることを知る機会を作る



好きなことや得意なことで活躍できる場を作る

様々な特徴のある人がいることを知る機会を作る

理不尽な言動や行動に我慢をさせず他児の気持ちを受け止め安心感を育む

平等に頑張って挑戦したことや出来たことを認め、存分に誉めたり喜びあう

課題② 年長クラスになってからの活動内容(行事での発表)はどうするか

## 7月 保育参観

鉄棒(前回り)

## 10月 運動会

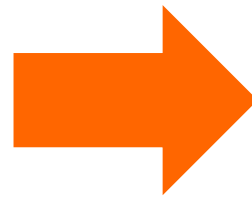
跳び箱・マット(前転)・組体操

## 11月 保育参観

登り棒

## 12月 クリスマス会

お遊戯・劇・ページェント



**配慮が必要だと考えられる発表**

**他児の出来ることや頑張ってきたことを発表したいと思う反面、他児との出来ることの差が大きい為どうするか？！**

職員会議の際に園長や職員に  
発表内容や発表の仕方について相談する。



## 決定

### 【発表の仕方】

- ① 学年やクラスで行ってきたことを発表する。
- ② 挑戦していることや自信をもって行えるものなど、自分が発表したいと思うものを自分で決めて披露する。

### 【保護者】

- ・ 行事ごとに行う内容を伝える。
- ・ 他児や本児の状況を伝える。
- ・ 本児の頑張りや、意欲等を伝える。
- ・ 差が出てしまう部分があることを理解し了承していただけるようにする。

- ・ 年長組として取り組んでいることを発表することで、年長組での育ちを見ていただく機会を作る。
- ・ 自分で何を披露するかを決めて行うことで各々の気持ちを大切にし、意欲をもって取り組めるようにする。
- ・ 友だちの意思や頑張っていることに共感し、認め合う機会を作る。また友だちの姿に刺激を受け自分も挑戦してみようとする気持ちを養う。
- ・ 自分で行うものを決めることで意思を尊重してもらい自己肯定感を育む。



## 7月 保育参観

大縄(八字跳のび)  
鉄棒(前回り)

※全員披露



大縄：縄をゆっくり回し他児と同様に行く  
鉄棒：前回りは恐怖心が強く行えない為、保育者の援助を受けながら足掛けぶら下がりを行った

## 10月 運動会

跳び箱  
マット(前転)  
組体操

※全員披露



跳び箱：跳び箱の上にまたがり進む  
マット：他児と同様に行くことができる  
組体操：2人組・3人組は本児の行いやすい場所にして行う

## 11月 保育参観

登り棒

※全員披露



登り棒：保育者が足元に手を添え援助する

# 12月 クリスマス会

◎劇(鶴の恩返し)

主役に近いおじいさん役に抜擢



動きや立ち位置などをしっかり理解し本児なりにおじいさんの動きを考えながら演じる様子が見られた。その様子に職員や他児から絶賛されたことが自信に繋がり練習にも意欲的に参加。本番も大きな舞台上でしっかりと演じ切ることが出来た。

## 子どもの育ち(5歳児クラス)

### 【出来ないこと】

- ・ 鉄棒の前回り、逆上がりなどは恐怖心があり行うことが出来ない。
- ・ 両足飛びが出来ないため跳び箱に飛び乗ることが出来ない。
- ・ ボールの片手投げが出来ない。
- ・ ボタンやファスナーが苦手、出来るものもある。
- ・ 衣服の着脱は自分で出来るが、きつめの洋服の着脱が難しい。
- ・ 階段は足を交互に降ろすことが出来ない。



### 【出来るようになったこと】

- ・ 滑り台を1人で滑ることが出来る。
- ・ 手をつかずに椅子から立ち上がることが出来る。
- ・ 少しの時間なら片足立ちが出来る。
- ・ ハーモニカでは1音ずつ音が出せ他児同様の曲を演奏することが出来る。



最後に・・・

◎支援が必要である園児に早く気づき子どもの状態や苦手な部分を知り、理解することで早い段階からアプローチすることが出来、子どもの育ちをより良いものにする機会が増えたと感じた。

◎保護者との連携が難しいという点

園で支援を行っていくなかで、子どもの育ちをみて「出来るようになった」「幼稚園でやってくれるから大丈夫」と保護者が安心してしまうことで支援に繋がりにくくなっている部分があるのではないか。

◎就学後、保護者や園児に対しての支援が今までと同様のレベルで引継ぎ継続していくことが出来るのか。

など、気づきや成果が見られた反面、疑問や課題もみつけられました。

今回の研修ではそのような部分についても先生からお話を伺えたら思っております。